

塚脇地蔵講の歴史

明治21年から始まった塚脇地蔵講は、流行りの疫病から住民を守る願いをお地蔵さんに託し、野菜や果物、粘土など身近な材料を使った見立て細工を作ったことから始まりました。

町内11か所にお地蔵さんを置いて供養しています。

今年も八月二十四日・二十五日に塚脇地蔵講実行委員会（委員長 山上誠治）主催塚脇地蔵講が開催され、たくさんのお見物客で賑わいました。
百二十年の歴史をもつ塚脇地蔵講ですが、高齢化等の影響で見立て細工製作を断念した地区もありましたが、小学校や幼稚園などの参加もあり、町内十一ヶ所に趣向を凝らした見立て細工が飾られました。



歩行者天国となった塚脇の交差点では、コミュニティ女性部が、優雅な山路踊りを披露しました。

塚脇地蔵講

野菜や瓶の柱など、身近な材料を使って、今年流行ったドラマや映画・スポーツなど、様々な作品が並びました。



各自治区・団体の方が、暑いなか数日前から取り組んだ見立て細工は、どの作品も見事な出来栄で、見物者は足を止めて見入り、デジカメや携帯で写真を撮る姿が多くみられました。



ホームページに全ての見立て細工の写真を掲載していますので、ご覧ください！



「まちなか循環バス」 10月から運行開始

玖珠町が、昨年から進めてきた地域公共交通の見直し（3年計画）のうち、町中心部を巡回する「まちなか循環バス」が、いよいよ10月から運行を開始します。

わらべの館を出発し、森中央小→玖珠町役場→下長野→塚脇→森中央小→わらべの館の循環バスとして朝八時から夕方四時三〇分までの間に八便を毎日運行します。

運賃は、一四〇円から二〇〇円。買い物や習い事、通院など、誰でも利用できる気軽な「あし」としてご利用下さい。

バス停・時刻表などの詳細は、十月号でお知らせします。

なお、大隈・山田・小田方面運行の「ふれあい福祉バス」は十一月から運行予定です。

